

## 次期計画における長期目標・短期目標（事務局案）

■長期目標・短期目標 ※1：多摩市気候非常事態宣言に沿った修正、※2：総合計画改定での検討を踏まえ修正、※3：東京都環境基本計画 2022 を参考に修正、下線：現行計画からの変更

	長期目標		短期目標	
	現行計画（令和 24〔2042〕年度目標）	改定案（令和 32〔2050〕年度目標）	現行計画（令和 3〔2021〕年度目標）	改定案（令和 12〔2030〕年度目標）
自然環境	<p>●<b>持続可能なみどりの保全</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【生物多様性】生物の重要な生息環境であるみどりや水辺環境を保全し、生物の多様性の確保を図ります</li> <li>【樹林】樹林地などの既存のみどりを保全するとともに、緑化を進めみどりの創出を図ります</li> <li>【水辺】残された良好な水辺環境を保全するとともに、失われた水辺環境の回復を図ります</li> <li>【公園緑地】良質な公園緑地の確保を図るとともに、市民参加による維持管理体制を充実します</li> <li>【歴史文化】史跡文化財の保全や歴史文化の継承を通じて、自然環境を守ります</li> </ul>	<p>●<b>持続可能なみどりの保全</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【共生】みどりの持つ多様な機能が発揮され、多摩市の豊かなみどりを自然資源として活用し、みどりと生き物、人との関係の維持・向上を図ります</li> <li>【生物多様性】多摩市における生物多様性の基盤となる自然環境の回復・確保を図ります</li> <li>【樹林】樹林地などの既存のみどりを保全するとともに、緑化を進めみどりの創出を図ります</li> <li>【水辺】残された良好な水辺環境を保全するとともに、失われた水辺環境の回復を図ります</li> <li>【公園緑地】良質な公園緑地の確保を図るとともに、市民参加による維持管理体制を充実します</li> <li>【歴史文化】史跡文化財の保全や歴史文化の継承を通じて、自然環境を守ります</li> </ul>	<p>●<b>自然と暮らしが調和した多摩のみどりの形成</b></p> <p>自然と暮らしが調和したみどりのあり方の構築をめざします。</p> <p>&lt;参考：管理指標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みどり率：現状維持</li> <li>みどりが豊かと感じる市民の割合：現状維持</li> <li>みどりの維持管理活動に参加したことの市民の割合：80.0%</li> <li>更新が必要な公園緑地の施設更新達成率：40.0%</li> <li>地域の歴史文化活動に参加したことの市民の割合：20.0%</li> </ul>	<p>●<b>自然と暮らしが調和した多摩のみどりづくり</b></p> <p>多摩市の魅力である里山や公園などのみどりと、親しみのある水辺環境の保全・創出により、みどりと水のネットワークの回復・形成をめざします*<sup>2</sup></p> <p>市民のみどりへの関わりを広げていく持続可能なみどりの管理手法の確立をめざします。</p> <p>地域の自然を楽しむ活動への参加、自然資源の持続的な利用に配慮した製品・サービスの選択*<sup>3</sup>など、生物多様性にも配慮した暮らしの実践をめざします。</p> <p>&lt;管理指標の設定イメージ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みどり率 →現行計画の目標を達成済み</li> <li>みどりが豊かと感じる市民の割合 →現行計画の目標を達成済み</li> <li>更新が必要な公園緑地の施設更新達成率 →現行計画の目標を達成に向け対応が必要</li> <li>みどりの保全活動や地域の歴史文化活動に参加したことの市民の割合 →現行計画の目標を達成に向け対応が必要</li> </ul>
生活環境	<p>●<b>安全で快適な生活環境の実現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【公害】大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭等の防止や、有害化学物質の適正管理といった生活環境の安全向上を図ります</li> <li>【まち美化】まちの美観を損なう行動を防止し、まちの美化を図ります</li> <li>【景観】みどりと都市が調和した良好な街なみの保全・創出を図ります</li> </ul>	<p>●<b>安全・健康で快適な生活環境の実現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【生活環境】良好な大気環境、水環境、土壌環境、音環境、地盤環境を確保するとともに、化学物質やアスベストなど有害物質や廃棄物の適正管理により、安全・健康に暮らすことのできる生活環境の確保を図ります。</li> <li>【景観・美化】みどりと都市が調和した良好な街なみの保全・創出、まちの美化を図ります。</li> <li>【気候変動への適応】気象災害に備えるよう健全な水循環の確保、みどりの調整機能の活用を図ります。</li> </ul>	<p>●<b>安全で快適な生活環境の保持</b></p> <p>現在の安全で快適な生活環境の保持をめざします。</p> <p>&lt;参考：管理指標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大気汚染にかかる環境基準適合率：全て基準値を満たす</li> <li>水質汚濁にかかる環境基準適合率：全て基準値を満たす</li> <li>地区計画の地区整備計画面積：420ha</li> <li>ポイ捨てのないきれいなまちと感じる市民の割合：100%に近づける</li> <li>放置自転車台数：0に近づける</li> </ul>	<p>●<b>安全・健康で快適な生活環境の保持</b></p> <p>安全・健康に暮らすことができ、快適な生活環境の保持をめざします。</p> <p>まちづくりのさまざまな取組みにおいて、気候変動の影響への適応強化をめざします。</p> <p>&lt;管理指標の設定イメージ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大気汚染にかかる環境基準適合率</li> <li>水質汚濁にかかる環境基準適合率</li> <li>地区計画の地区整備計画面積</li> <li>ポイ捨てのないきれいなまちと感じる市民の割合</li> <li>放置自転車台数</li> </ul>
地球環境	<p>●<b>環境負荷の軽減</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【ごみ・資源】ごみの減量、資源の有効利用を進め、環境負荷の少ない循環型社会の構築を図ります</li> <li>【エネルギー】エネルギーの有効利用を進め、環境負荷の少ない省エネルギー型社会の構築を図ります</li> <li>【水循環】節水や水の有効利用を進めるとともに地下水涵養を図り、健全な水循環の確保を図ります</li> <li>【交通・移動】環境負荷の少ない交通環境の充実を図ります</li> </ul>	<p>●<b>持続可能で地球に優しいライフスタイルを取り入れた社会の実現</b>*<sup>1</sup></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【脱炭素】エネルギー使用の節約と地域資源を生かす再生可能エネルギーへの転換により、生活・暮らしの豊かさや地域経済につなげ、CO<sub>2</sub>排出実質ゼロの実現を図ります。*<sup>1</sup></li> <li>【住宅・建物】全ての建物がゼロエミッションビル（ZEB）となっています。*<sup>3</sup></li> <li>【交通・移動】全ての自動車がZEVとなっています。*<sup>3</sup></li> <li>【資源循環】使い捨てプラスチックの使用削減*<sup>1</sup>、CO<sub>2</sub>排出実質ゼロのプラスチック利用*<sup>3</sup>、食品ロス発生実質ゼロ*<sup>3</sup>が進んでいます。</li> <li>【水循環】節水や水の有効利用を進めるとともに地下水涵養を図り、健全な水循環の確保を図ります。</li> </ul>	<p>●<b>環境にやさしい暮らしの推進</b></p> <p>一人ひとりにできる環境にやさしい暮らしの実践をめざします。</p> <p>&lt;参考：管理指標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭系ごみ排出量（市民1人1日あたり）：減らす</li> <li>再生利用率：増やす</li> <li>スーパーエコショップ認定店舗の数：36店舗</li> <li>市内のCO<sub>2</sub>排出量：535,800 t-CO<sub>2</sub></li> <li>雨水貯留槽設置件数：400件</li> <li>ミニバス利用者数：650,000人/年</li> </ul>	<p>●<b>カーボンハーフの達成に向けた行動の実践</b></p> <p>省エネルギーの推進と再生可能エネルギーへの転換、資源の有効活用を図り*<sup>1・3</sup>、2030年カーボンハーフ*<sup>2</sup>の達成をめざします</p> <p>&lt;管理指標の設定イメージ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内温室効果ガス排出量：50%削減</li> <li>市内エネルギー消費量：50%削減</li> <li>市内の再エネ電力利用率：50%程度</li> <li>一般廃棄物焼却での廃プラスチック類の焼却に伴うCO<sub>2</sub>排出量：-40%</li> <li>乗用車の購入時にZEVを選ぶ人：50%</li> <li>使い捨てプラスチックを削減するよう心掛けている人：100%</li> <li>公共施設にける太陽光発電の導入率：50%以上</li> <li>公共施設における再エネ電力利用率：50%</li> </ul> <p>→再エネビジョンの検討を経て設定</p>
環境活動	<p>●<b>人と環境の関わりの深化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【環境教育】学校教育における環境教育の充実を図ります</li> <li>【環境学習】生涯学習としての環境学習の拡充を図ります</li> <li>【環境情報】環境に関する情報の収集と、適切な情報提供を図ります</li> </ul>	<p>●<b>環境共生都市を支える市民協働の実現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【行動変容】市民一人ひとりが環境問題を自分事として捉え、市民全員で考えを共有して行動実践する社会の実現を図ります。*<sup>1・2</sup></li> <li>【環境教育】学校教育における環境教育の充実を図ります。</li> <li>【環境学習】生涯学習としての環境学習の拡充を図ります。</li> <li>【環境情報】環境に関する情報の収集と、適切な情報提供を図ります。</li> </ul>	<p>●<b>環境への理解促進と適切な情報提供</b></p> <p>環境との関わりを通して、環境への理解を深めていくことと、安全安心等に関わる適切な環境情報を提供していくことをめざします。</p> <p>&lt;参考：管理指標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもを対象とした環境に関する活動の実施回数：24事業</li> <li>ユネスコスクールホームページへの環境教育の取組みの情報発信及び更新：全校</li> </ul>	<p>●<b>意識と行動の変革につながるムーブメント</b></p> <p>市民一人ひとりの行動で社会を変え、社会の変化がさらなる意識と行動の変革につながるムーブメントの醸成をめざします。*<sup>1・2</sup></p> <p>環境を支える人材を育成し、市民・事業者・市が連携・協働して取り組む体制の構築をめざします。*<sup>2</sup></p> <p>&lt;管理指標の設定イメージ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもを対象とした環境に関する活動の実施回数 →現行計画の目標を達成に向け対応が必要</li> <li>ユネスコスクールホームページへの環境教育の取組みの情報発信及び更新 →現行計画の目標を達成済み</li> </ul>

■参考：現行計画と東京都、都内自治体の比較

	東京都環境基本計画 2022（R4年9月）		昭島市環境基本計画（R4年3月）	
	【長期目標】 ※主な指標	【短期目標】 ※主な指標	【長期目標（基本目標）】	【短期目標（10年後の目標）】
自然環境	<p><b>●生物多様性の恵みを受け続けられる、自然と共生する豊かな社会の実現</b></p> <p>自然に対して畏敬の念を抱きながら、地球規模の持続可能性に配慮し、将来にわたって生物多様性の恵みを受け続けることのできる、自然と共生する豊かな社会を目指す</p> <p>&lt;生態系サービスごとのあるべき姿&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>供給サービス：都内外の自然資源を持続的に利用する都市</li> <li>調整サービス：自然の機能が発揮されたレジリエントな都市</li> <li>文化的サービス：自然の恵みにより生活を豊かにする都市</li> <li>基盤サービス：豊かな自然があふれ生きものと共生する都市</li> </ul> <p>&lt;大都市東京ならではの姿&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都内のあらゆる場所で生物多様性の保全と持続的な利用が進んでいる</li> <li>都内だけでなく、日本全体・地球規模の生物多様性にも配慮した行動変容が進んでいる</li> </ul>	<p>自然と共生する豊かな社会を目指し、あらゆる主体が連携して生物多様性の保全と持続可能な利用を進めることにより、生物多様性を回復軌道に乗せる（＝ネイチャーポジティブの実現）</p> <p>&lt;生物多様性の保全と回復を進め、東京の豊かな自然を後世につなぐ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生物多様性バージョンアップエリア 10,000+</li> <li>新たな野生絶滅ZEROアクション</li> </ul> <p>&lt;生物多様性の恵みを持続的に利用し、自然の機能を都民生活の向上にいかす&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Tokyo-NbS※アクションの推進</li> </ul> <p>&lt;生物多様性の価値を認識し、都内だけでなく地球規模の課題にも対応した行動にかえる&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生物多様性都民行動100%</li> </ul>	<p><b>清らかな水と美しい緑を未来に継承するまち</b></p>	<p><b>エコロジカル・ネットワークの保全・創出</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みどり率：41.1%を維持</li> <li>緑地確保目標量：25.6%を維持</li> <li>崖地樹林地の調査実施率、対策実施率：100%</li> <li>特定生産緑地面積：維持</li> <li>湧水個所数：維持</li> <li>農業用水路の維持（用水路延長）：19kmを維持</li> <li>雨水貯留槽の設置数：520件</li> <li>水・緑に関する学習・保全活動に参加したことがある市民の割合：50.0%</li> </ul> <p><b>水と緑を通じた連携・交流</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生物の実態調査の実施：実施</li> <li>身近な自然資産散策マップの作成と活用：マップを活用した啓発事業を実施</li> <li>水・緑に関する学習・保全活動に参加したことがある市民の割合：50.0%</li> </ul>
生活環境	<p><b>都民の安全・健康が確保された、より良質な都市環境の実現</b></p> <p>&lt;大気環境等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界の大都市で最も水準の高い良好な大気環境を実現</li> <li>都内の建築物等に残る危険なアスベスト含有建材が適切に管理・処理され、大気中への飛散が防止</li> <li>騒音・振動問題の解決が進み、都民生活の快適性が向上</li> </ul> <p>&lt;化学物質等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境中への化学物質の排出に伴う健康等のリスクが最小化</li> <li>持続可能な土壌汚染対策が選択されるとともに、土壌・地下水中の有害物質濃度等の情報を社会全体で共有・管理</li> </ul> <p>&lt;廃棄物&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都内区市町村や近隣自治体等と連携し、強靱な廃棄物処理体制を確立</li> </ul>	<p>&lt;大気環境&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>PM2.5:各測定局の年平均10<math>\mu\text{g}/\text{m}^3</math>以下</li> <li>光化学オキシダント濃度：年間4番目に高い日最高8時間値の3年平均0.07ppm以下</li> <li>光化学スモッグ注意報の発令日数：ゼロ</li> </ul> <p>&lt;アスベスト&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平常時：建築物の解体・改修工事現場等におけるアスベストの飛散防止措置が適正に講じられている</li> <li>災害時：倒壊建築物に由来するアスベストの飛散防止対策を迅速に実施できる体制が構築されている</li> </ul> <p>&lt;騒音・振動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建設現場から発生する騒音の低減に向けた効果的な対策が定着している</li> </ul>	<p><b>健康に暮らせる生活環境を守るまち</b></p>	<p><b>生活環境の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一酸化炭素濃度（CO）の環境基準の達成</li> <li>二酸化窒素（NO<sub>2</sub>）の環境基準の達成</li> <li>浮遊粒子状物（SPM）の環境基準の達成</li> <li>微小粒子状物質（PM2.5）の環境基準の達成</li> <li>光化学スモッグ注意報発令日数：0日</li> <li>ダイオキシン類対策特別措置法で定められた大気環境基準の達成</li> <li>多摩川の生物化学的酸素要求量（BOD）の達成</li> <li>湧水の亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素の達成</li> <li>地下水揚水量の維持</li> <li>航空機騒音：基準達成</li> </ul>
地球環境	<p><b>エネルギーの脱炭素化と持続可能な資源利用によるゼロエミッションの実現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ゼロエミッション東京」を実現し、世界の「CO<sub>2</sub>排出実質ゼロ」に貢献</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都内温室効果ガス排出量（2000年比）：50%削減（カーボンハーフ）</li> <li>都内エネルギー消費量（2000年比）：50%削減</li> <li>再生可能エネルギー電力利用割合：50%程度（中間目標：2026年30%程度）</li> </ul>	<p><b>【緩和分野】持続可能な地球環境のために責任をもって行動するまち</b></p> <p><b>【適応分野】気候変動の影響に備え、安全・安心に暮らせるまち</b></p>	<p><b>【緩和分野】市域の温室効果ガス削減</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市域の温室効果ガス排出量：-50%</li> <li>エネルギー消費量：-50%</li> <li>家庭用燃料電池普及率：14%</li> <li>乗用車の自動車の購入時にZEVを選ぶ人の割合：100%</li> <li>廃プラスチック類焼却量：-40%</li> <li>再生可能エネルギー電力利用率：50%</li> </ul> <p><b>【緩和分野】資源の循環的な利用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ごみの資源化（総資源化率）：41.3%以上</li> <li>集団回収を除く家庭1人1日あたりごみ排出量：555g/日以下</li> <li>事業系ごみ総排出量：5,327トン以下</li> <li>フードドライブの回収量：1,000kg/年</li> <li>買い物にはマイバッグを携帯し、レジ袋はもらわないよう心掛けている市民の割合：100%</li> <li>食べ残しを極力少なくするよう心掛けている市民の割合：100%</li> </ul> <p><b>【適応分野】気候変動への適応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内における気候変動のリスクの検証の実施</li> <li>気候変動に関する情報の収集・提供・発信等を行う体制の整備</li> </ul>
環境情報	—	—	<p><b>みんなで環境活動に取り組むまち</b></p>	<p><b>地域に根差した環境学習の活発化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境学習講座の参加者数：150人/年</li> <li>水・緑に関する学習・保全活動に参加したことがある市民の割合：50%</li> </ul> <p><b>協働による取組のための体制づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昭島環境未来会議、環境配慮事業者ネットワークなどの活動の継続</li> </ul>

	第3次町田市環境マスタープラン（R4年3月） ※地球温暖化対策実行計画（区域施策編）、地域気候変動適応計画、生物多様性地域戦略を包含	第3次日野市環境基本計画（R4年3月）	第三次足立区環境基本計画改定版（R4年3月） ※地球温暖化対策実行計画（区域施策編）、地域気候変動適応計画、食品ロス削減推進計画、プラスチックごみ削減方針、生物多様性地域戦略、環境教育等行動計画を包含
	【短期目標（基本目標、成果指標）】	【短期目標（基本目標）】	【短期目標】
全体	—	2017年比温室効果ガスの排出量 2030年：46%減 2050年：100%減	2013年比温室効果ガスの排出量 2030年：46%以上減、50%減を目指す 2050年：ゼロ
自然環境	<b>源流から里山、都市が織りなすいのち輝くまち</b> ・市民協働による生きもの調査への参加者数：10,000人 ・生きものに関心のある市民の割合：80% ・みどりとのふれあいに満足している市民の割合：62% ・水辺とのふれあいに満足している市民の割合：58% ・みどり率：現状維持 ・歴史・文化とのふれあいに満足している市民の割合：39%	<b>多様なみどりをつなぐまち</b> ・丘陵地・崖線のみどりの保全 ・街なかのみどりの保全・創出・育成 ・協働によるみどりの保全・創出・活用 <b>豊かな水環境をつなぐまち</b> ・地下水・湧水の維持・保全 ・河川・用水の保全・活用 ・協働による水辺の保全・創出・活用 <b>人と多様な生きものが共に暮らせるまち</b> ・人々の生物多様性に係わる関心の増進 ・生きものと共に暮らせる人と自然のかかわりの創出 ・日野らしい自然の保全・育成	<b>「ひと」と自然が相互に関わっていることを認識し、多様な生物と共生できるまちをつくる</b> ・生物とふれあう事業の参加者数：310,240人 ・自然や生物に関する情報発信回数：3,200回 ・まちなかの花や緑が増えていると感じる区民の割合：31.6% ・保存樹林指定箇所数：30箇所 ・緑豊かな景観形成に取り組む団体・区民の数：1,312
生活環境	<b>安全で快適な暮らしを実現するまち</b> ・大気環境、水環境、騒音に関する環境基準の達成割合：現状維持 ・居住地の周辺環境（大気、水質、騒音など）に満足している市民の割合：77% ・まち並みや景観に満足している市民の割合：53%	<b>心やすらぐ住みよいまち</b> ・日常生活をとりまく環境の充実 ・身近な環境対策の推進	<b>公害等を防止し、より健康で快適な生活環境の維持、向上を図る</b> ・公害苦情の相談件数：232件 ・公害苦情相談の解決率：100% ・適切なアスベスト対策を行っている解体等工事現場の割合：50% ・ごみがなく地域がきれいになったと感じる区民の割合：50% ・ごみゼロ地域清掃活動の参加者数：80,000人 ・不法投棄処理回数：7,298個
地球環境	<b>エネルギーを賢く利用し、気候変動の影響にも対応するまち</b> ・市内のエネルギー消費量：約33%削減 ・家庭のエネルギー消費量：約31%削減 ・事業者のエネルギー消費量：約32%削減 ・市内の再生可能エネルギー導入量：約29%増加 ・市内の温室効果ガス排出量：約33%削減 ・市内乗用車の登録台数に占めるEV、FCVの割合：4.57% ・気候変動の影響に備えている市民の割合：基準値から10ポイント増加 <b>徹底したごみ減量、資源化を進めるまち</b> ・1人1日当たりのごみ排出量：714g ・総資源化率：40% ・ごみの焼却による温室効果ガス排出量：約24,000t-CO <sub>2</sub>	<b>気候変動緩和・適応を実現するまち</b> ・温室効果ガス排出削減・吸収等による緩和 ・地域特性に合った適応 <b>ごみゼロのまち</b> ・公民協働によるごみ減量の取組みの推進 ・情報発信・啓発によるごみ減量・資源化の推進 ・広域連携の推進	<b>エネルギーを賢く使うとともに、気候変動に適応できるまちをつくる</b> ・区内のエネルギー使用量：14,409TJ（2013年度比▲46%） ・助成制度による省エネ支援件数：410件 ・省エネルギーを心がけている区民の割合：75% ・再生可能エネルギーの導入による二酸化炭素排出削減効果量：29,000t-CO <sub>2</sub> ・区の助成による年間の太陽光発電の導入量：1,000kW ・再生可能エネルギーの導入量（累計）：61,468kW ・区内の二酸化炭素吸収量：4,000t-CO <sub>2</sub> ・樹木被覆地率：10.2% ・緑化活動に実際に参加した区民の割合：18.9% ・熱中症や気象災害による死者：0人 ・熱中症対策講座受講者数：800人 ・河川の氾濫時の避難場所を決めている区民の割合：80.0% <b>くらし方の工夫で、ごみを減らすとともに、資源が循環するまちをつくる</b> ・区が把握できる廃棄物の量（区収集ごみ＋資源化物＋事業系持込ごみ）：188,000t ・区内のごみ量（区収集＋事業系持込）：158,400t ・1人1日あたりの家庭ごみ排出量：470g ・燃やすごみに含まれる資源化物の割合：14.8% ・適正排出のための指導：1,632件 ・資源化率：21.5% ・資源買取市の利用者数：6,500人 ・環境に配慮した製品を選んで使っている区民の割合：14.0%
環境情報	<b>環境について、みんなで学び、協働を進めるまち</b> ・環境に配慮した行動を行っている市民の割合：基準値から10ポイント増加 ・エコ宣言事業者数：120店・事業所 ・SNS等のフォロワー数：10,000		<b>すべての「ひと」が環境について共に学び、行動するしくみをつくる</b> ・環境に関する情報発信回数：420回 ・環境学習プログラムに参加し、修了した人の数：958人 ・自主的な環境保全活動数：1,400回 ・区が実施する環境配慮を促す事業の数：80事業 ・エコ活動ネットワーク足立の登録団体数：95団体